

四條畷市教育委員会ニュース

内容：

・「授業改善をめざして」

四條畷南中学校国語科1年生の

公開授業から

「授業改善をめざして」

四條畷南中学校国語科1年生の公開授業から

新年度が始まって2カ月がたちました。運動場の木々の新緑や春の花々がさわやかな風を送ってくれています。市立幼稚園・小学校・中学校においては、新しい友達、先生方との出会いで、気持ちも新たに元気に日々の教育活動にはげんでいる姿が見られます。

前号で紹介しました学力向上に関する主な取組みのなかで、今年度は特に、各学校の特色ある教育実践の充実を図り、授業改善を推進することが本格的になってきました。各学校では、児童生徒の実態について全教職員全体で共通理解を図り、課題解決に向かって授業改善の研究テーマに焦点を絞りこんで取り組んでいます。

5月16日、四條畷南中学校において昨年度より取り組んでいます「通常の学級における発達障がい等支援事業」の一環として、関西国際大学の中尾繁樹教授と大阪府教育委員会指導主事の出席のもと、1年生の理科・社会科・音楽科、国語科の授業が公開されました。

その中で国語科「漢字を確認しよう」の授業を紹介すると、

国語科 主な学習内容・活動	1 復習（10分）	①漢字テスト	毎時間 10問小テストと答え合わせ
	2 学習の流れの確認をする（10分）	②前の時間の復習	表現方法の確認（比喩法など）
	3 目標の確認	班で教え合いをして、全員がプリントに漢字を正確に書いて提出する	
	プリント学習（25分）	③自分で取組む	④班で取組む
	4 まとめ（5分）	⑤プリント回収と次回の連絡	



国語科の活動方針のひとつに「毎時間のはじめに、漢字10問テストを行う」こととされています。答え合わせは、黒板の解答をもとに一字一字「とめる・はねる・はらう」がしっかりできているか、ていねいに確認をし

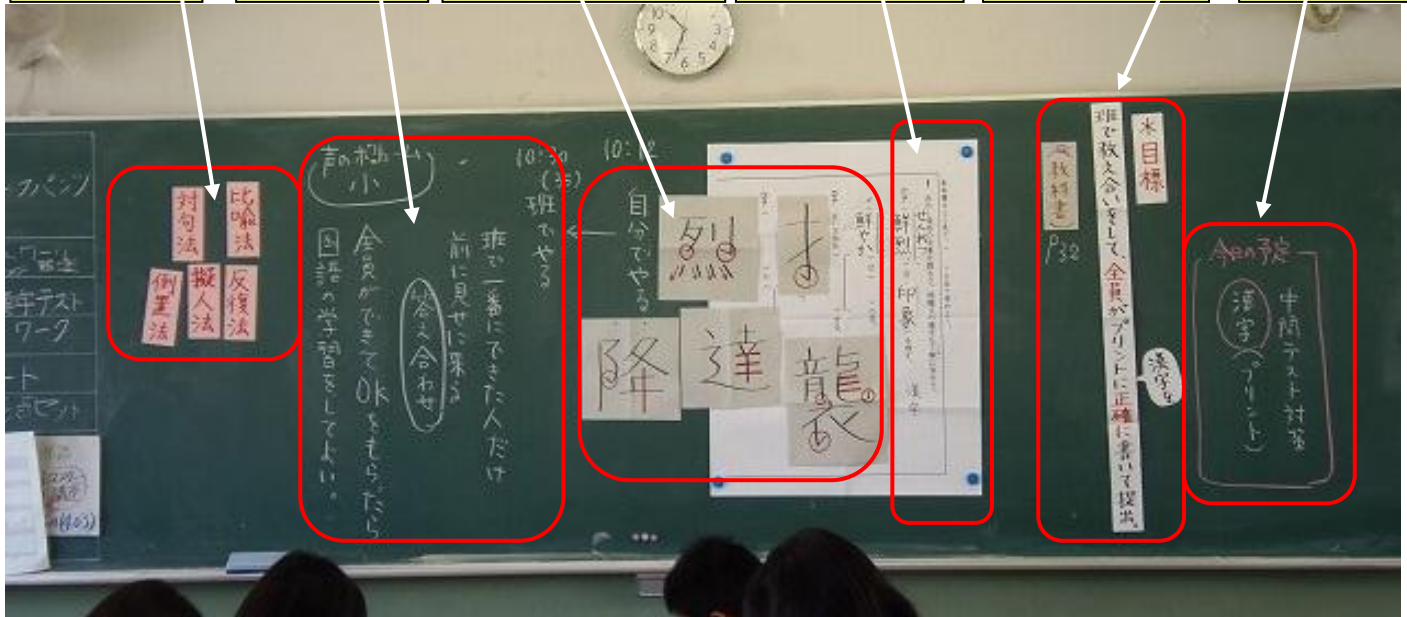
ていきます。

中学校生活が初めての1年生にとっては、すべてに不安感を持っています。特に授業においては、一人ひとりが思考を深め、学習内容を確実に理解するため、生徒の立場に立った事前準備が大切になってきます。教材・教具の工夫だけでなく、学習の目標（めあて）や流れがわかる黒板の使い方、趣旨がよくわかるしゃべり方・速さなども授業の大切な要素として事前準備にここがけています。

黒板の使い方で工夫されているところ（「構造化された板書」といいます）

- 学習のめあてや課題、流れ、まとめなどが明確で、その時間の学習過程がわかる
- 生徒の考え（発表など）が活かされている
- 大事なところを、掲示物や色チョーク、マグネットなどで工夫して示されている
- 教室の後ろの生徒からも見えるような文字の大きさ、行間なども配慮されている など

生徒の発表を生かす掲示物で前時の復習	時刻と学習の流れを明記し、目標の再確認	特に間違えやすい部分を大きな掲示物と色分けで強調し理解の徹底	配布物を拡大して掲示。問題の共通理解を図る	学習の目標（めあて）で学習の見通しを持たせる	今日の学習予定を赤いチョークで示している
--------------------	---------------------	--------------------------------	-----------------------	------------------------	----------------------



授業者（森さつき教諭）の板書・国語科1年生「漢字を確認しよう」

今回の授業では、すべての生徒が自分の持てる力を発揮し、認められ、「わかる」「できる」を実感できる授業づくりをめざされていることが伝わってきました。そのために板書や学習課題の内容などを工夫されていることが上の写真からも理解することができます。また、プリントの学習内容を確認する場面では、4人の班活動を取り入れられ、教え合いをとおして全員がプリントに漢字を正確に書いて提出することをめざされていました。



四條畷南中学校には市内4つの小学校から入学してきます。生徒間の対人関係やコミュニケーションを高め、安心できる居心地のよい、自分の居場所のある学級づくりが大切にされています。授業のなかでの4人班の教え合い学習も、そのための大切な学習形態とされています。

言い換えれば、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりと集団づくりを通して、どの生徒にも「わかる」「できる」授業をめざし、すべての生徒を大切にした学校づくりへ動き出していると言えるのではないのでしょうか。

